

指導内容系統表例（社会科、地歴・公民科）

単元「欧米の進出と日本の開国」

		小学校	中学校	高等学校
学習指導要領に示された内容	指	・黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。	・市民革命や産業革命を経た欧米諸国のアジアへの進出を背景に、開国とその影響について理解させる。	・開国、幕府の滅亡と新政府の成立からの明治時代の近代日本の歩みについて、アジアにおける国際環境と関連付けて考察させる。
		<p>政</p> <p>押さえておきたい</p> <p>基</p> <p>人々の生活</p> <p>基本的な知識の動き</p>	<p>・1853年、アメリカの使節ペリーが4隻の軍艦を率いて浦賀沖にあらわれ、開国を要求する。</p> <p>・1854年、ペリーの要求を受け入れ、日米和親条約を結んで、下田、函館の2港を開く。</p> <p>・1858年、日米修好通商条約を結び、横浜、函館、長崎、新潟、神戸を貿易港として開く。外国人が罪を犯しても日本の法律で裁くことができない輸出入品に自由に税をかけることができない。→日本にとって不平等</p> <p>・江戸幕府にかわる新しい政治の仕組みをつくらうとする動きが強まった。→薩摩藩の西郷隆盛や大久保利通、長州藩の木戸孝允らの若い武士が中心</p> <p>・坂本龍馬らの活躍で、薩摩藩と長州藩は同盟を結ぶ。(薩長同盟)</p> <p>・1867年、15代将軍徳川慶喜は政権を朝廷に返した。</p> <p>・幕府が倒れた後、内戦が続いた時に幕府側代表の勝海舟と薩摩藩の西郷隆盛が話し合いを行い、江戸城は武力によらず明けわたされた。</p>	<p>・1853年、アメリカの使節ペリーが4隻の軍艦を率いて浦賀沖にあらわれ開国を要求する。</p> <p>・1854年、ペリーとの間に日米和親条約を結ぶ。下田、函館の2港をひらき、下田にアメリカの領事が駐在することを認める。</p> <p>・1858年、大老井伊直弼は、日米修好通商条約を結ぶ。神奈川(横浜)、函館、長崎、新潟、兵庫(神戸)を貿易港として開く。外国人の犯罪をその国の領事が裁くこと(領事裁判権)を認める。輸入品の関税率を決める権利(関税自主権)がない。→日本にとって不平等</p> <p>・井伊直弼による安政の大獄→吉田松陰らを処刑(井伊直弼は、桜田門外で暗殺される。)</p> <p>・尊皇攘夷運動が盛んになる。→薩摩藩や長州藩が中心 長州藩→下関海峡を通過する外国船を砲撃→イギリスなどの四国艦隊による攻撃</p> <p>・土佐藩の坂本龍馬らの仲立ちで、薩摩藩の西郷隆盛や大久保利通らは長州藩の木戸孝允らと薩長同盟を結んだ。</p> <p>・1867年、15代将軍徳川慶喜は政権を朝廷に返上した。(大政奉還)</p> <p>・岩倉具視らは王政復古の大号令を発し、天皇の政治にもどすことを宣言する。</p> <p>・新政府軍と幕府軍との戦い(戊辰戦争)→鳥羽・伏見の戦い→江戸城無血開城→函館の戦い(幕府軍が降伏)</p>
課題を見付ける力	育	・ペリー来航の歴史的事象を通して、どのようにして江戸幕府が倒れていったかについて課題意識をもつ。	・欧米諸国のアジアへの進出を背景にした我が国の開国とその影響について課題意識をもつ。	・欧米諸国のアジア進出を背景に、開国後の日本が政治・経済・文化の全般にわたって、どのように影響を受けたかについて課題意識をもつ。
資料を活用し表現する力	力	・身近な地域に残る遺跡や文化財、各種の基礎的資料を活用し、ペリー来航について調べることを通して、江戸幕府が倒れていくきっかけになったことやその後の倒幕の動きについて分かりやすく表現することができる。	・様々な資料を収集し、適切に選択・活用することで、市民革命や産業革命を経た欧米諸国のアジアへの進出や我が国の開国とその政治的及び社会的影響について調べ、分かりやすく表現することができる。	・開国から幕末に関する諸資料を収集し、適切に選択・活用することや博物館や文化遺産を活用することなどを通して、欧米諸国のアジア進出を背景に開国後の日本が、政治・経済・文化の全般にわたってどのような影響を受けたかについて適切に表現することができる。
自ら考え、判断する力	力	・ペリー来航の歴史的事象を通して、我が国が開国し、江戸幕府が倒れるきっかけになっていったことやその後の倒幕の動きについて多面的に考えることができる。	・市民革命や産業革命を経た欧米諸国のアジアへの進出を背景にした我が国の開国を通して、その政治的及び社会的影響やその後の明治維新への動きを生み出していくことにもなっていくことについて多面的・多角的に考察することができる。	・開国から幕末にかけての日本の歩みをアジアにおける国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察することができる。
活用例	力	・西郷、大久保らの指導のもとで行われた明治の諸改革について学習したことを基に、そのころ活躍した郷土の人物について調べさせる。	・小学校でのペリー来航の学習について想起させながら、我が国の開国とその影響について欧米諸国のアジア進出を背景に理解させる。	・中学校での欧米諸国のアジア進出についての学習を想起させながら、開国から幕末までの歴史の流れについて、アジアを中心とする国際環境と関連付けながら理解させる。

小・中・高いずれにも出てくる重要事項